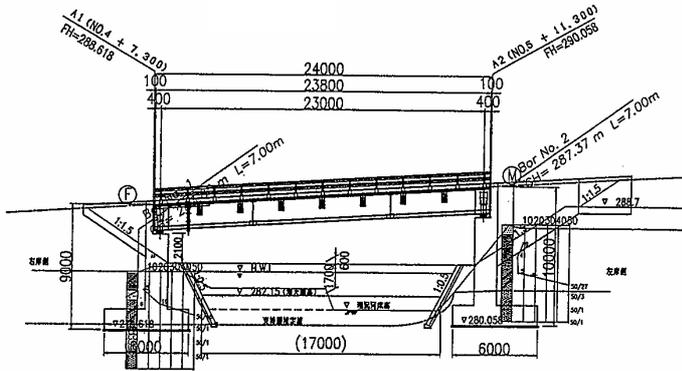


事例 NO. 4

事業の種類	道路・街路	
環境配慮の概要	地元産木材利用による景観を配慮した木橋の架設	
事業名	ふるさと林道緊急整備事業 河内高野線開設工事	
事業主体	広島県（担当機関：備北地域事務所農林局庄原支局）	
実施場所	広島県比婆郡東城町大字久代	
実施期間	平成14年3月～平成15年3月	
事業概要	全体事業費	上部工 約26百万円
	施工区間等	木橋部分 W = 7.0m L = 24.0m
	事業の目的・経緯等	当該事業は、地域が緊急に対応しなければならない課題に依って早急に行う必要がある林道の整備について、自然環境の保全に配慮しつつ、山村地域の振興と定住環境の改善に資することを目的としている。木橋架設については、林道事業における「地産地消」による森林資源循環促進や、地域のシンボルとしての役割を期待している。
環境配慮の内容	<p>工法等</p> <p>(1) 地元産の調達 「地産地消」という言葉が、農業関係者の間で言われているが、林業においても、地場木材や地域で発生した木材廃棄物を活用することで地域林業を活性化しようという動きが出ている。 このため、当該事業の橋梁上部工では、「地産地消」を大きな目的に、地元において次の点に留意して選木を行い、橋梁施工地に隣接した地域から木材を調達した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ山の同じ林齢の木でも、太いものは年輪幅が大きいため強度が低い。 ・根曲がり強度は出ない。 ・山の向きは北向きが良い。 ・曲がりがあるものは乾燥時に癖がでる。 <p>(2) 周辺環境との調和 木材使用（地元材）により、周辺環境と柔らかに調和している。また、使用塗料（天然素材）についても、木の風合いを損なわないように配慮している。</p>	
施工後の状況	<p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木橋は田園風景の周辺環境と良く馴染み、また、高欄にも地元木材を使用しているため、遠景でも木橋であることが判別でき、シンボリックである。 	
留意点等	<ul style="list-style-type: none"> ・地元材を利用したが、実際に橋梁に使用する幅265mmの板を取るためには、樹齢60年以上のものを採さなければならず、少々困難であった。また、歩留りは原木から集成材製作までが約22%と非常に悪かった。今後は、原木調達の面からも歩留りの面からも、板幅を小さくする検討が必要である。 ・原木伐採からひき板（ラミナ）の生産までは東城町内の森林組合や業者で行うことができたが、集成材製作の可能な工場が県内になく、県外で加工せざるを得なかった。 ・施工箇所からわずか200～300mしか離れていない山から出した木材で作られた橋というのは、他にあまり例がない。今後は耐久性などの調査を引き続き行うとともに、「地産地消」に向けた普及活動等に利用していきたい。 	

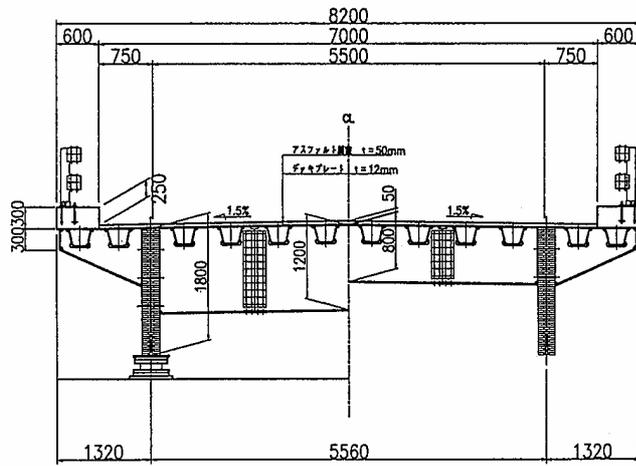
(図面, 写真, 説明)



【木橋の側面図】



【河内高野線 木橋状況】
(高欄部及び桁部に地域スギ材を使用)



【木橋の断面図】



【高欄部】



【桁部(集成材)】

出典